

研究報告書表紙レイアウト（参考）

厚生労働科学研究費補助金
難治性疾患等政策研究事業 研究事業
神経難病における中枢神経感作のメカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発
令和元年度 総括・分担研究報告書
研究代表者 眞野 智生
令和 2（2020）年 5月

作成上の留意事項

分担研究報告書がある場合は、「総括・分担研究報告書」と表記すること。

研究報告書目次レイアウト（参考）

目 次

I．総括研究報告	
神経難病における中枢神経感作の メカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発	1
真野 智生	
（資料）「神経難病を診療する医師に対する実態把握」のアンケート調査用紙	
（資料）自主臨床研究「神経難病における疼痛に特徴的な客観的指標及び運動感覚閾値の変動を基盤とした中枢神経感作の研究」のプロトコル	
II．分担研究報告	
1．神経難病における中枢神経感作の メカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発	2
齋藤洋一	
2．神経難病における中枢神経感作の メカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発	3
望月秀樹	
2．神経難病における中枢神経感作の メカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発	4
柴田政彦	
2．神経難病における中枢神経感作の メカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発	5
細見晃一	
2．神経難病における中枢神経感作の メカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発	6
宮井一郎	
2．神経難病における中枢神経感作の メカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発	7
藤村晴俊	
III．研究成果の刊行に関する一覧表	8

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業研究事業）
（総括）研究報告書

神経難病における中枢神経感作の
メカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発

研究代表者 眞野 智生 奈良県立医科大学
医学部 講師

研究要旨

脳科学の手法を用いて神経難病のアンメットニーズである異常感覚や痛みを解析し、中枢神経感作のメカニズムを解明するとともに、実際の診療状態を調査する。

齋藤洋一・大阪大学，望月秀樹・大阪大学，柴田政彦・奈良学園大学，細見晃一・大阪大学，宮井一郎・森之宮病院，藤村晴俊・刀根山病院

A. 研究目的

神経難病の異常感覚と痛みの中心神経感作のメカニズムを明らかにする。実際に神経難病を診察している医師のニーズ、考え方を調査する。

B. 研究方法

自主臨床研究にて、神経難病患者に対する電機生理学及び脳機能画像を用いた評価を行う。また、アンケート調査を行い、診療実態を調査する。
（倫理面への配慮）

臨床研究は、「ヘルシンキ宣言」および「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守して実施し、大阪大学倫理委員会の承認を得ている。

C. 研究結果

自主臨床研究「神経難病における疼痛に特徴的な客観的指標及び運動感覚閾値の変動を基盤とした中枢神経感作の研究」は、令和2年3月までにパーキンソン病20名、スモン2名、筋萎縮性側索硬化症5名、筋疾患20名の検査を完了している。現在解析を行っており、学会発表を予定している。

2018年3月に、日本神経学会専門医5470名に対してアンケート用紙を送付したアンケートを回収、集計を行った。

D. 考察

解析中であるが、神経変性疾患の異常感覚は、脳局所部位同士の異常な結合が原因の可能性が高い。アンケートでは神経内科医師の大部分が神経難病の異常感覚の対応に苦渋していることが理解できた。

E. 結論

概ね順調に進行している。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

1: Goto Y, Mano T, et al. Pilot Study of Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation in Patients With Chemotherapy-Induced Peripheral Neuropathy. J Clin Neurosci 2020;73:101-107

2: Hosomi K, Mano T. A randomized controlled trial of 5 daily sessions and continuous trial of 4 weekly sessions of repetitive transcranial magnetic stimulation for neuropathic pain. Pain. 2020 ; ;161(2):351-360.

2. 学会発表

EFFICACY AND SAFETY OF REPETITIVE TRANSCRANIAL MAGNETIC STIMULATION IN ALZHEIMER'S DISEASE OPEN-LABEL TRIAL. ADPD2019

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし 2. 実用新案登録 なし 3. その他

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業研究事業）
（分担）研究報告書

神経難病における中枢神経感作の
メカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発

研究分担者 齋藤 洋一 大阪大学
大学院医学系研究科脳神経機能再生学 特任教授（常勤）

研究要旨

脳科学の手法を用いて神経難病のアンメットニーズである異常感覚や痛みを解析し、中枢神経感作のメカニズムを解明するとともに、実際の診療状態を調査する。

A. 研究目的

神経難病の異常感覚と痛みの中心神経感作のメカニズムを明らかにする。実際に神経難病を診察している医師のニーズ、考え方を調査する。

B. 研究方法

自主臨床研究にて、神経難病患者に対する電機生理学及び脳機能画像を用いた評価を行う。また、アンケート調査を行い、診療実態を調査する。

（倫理面への配慮）

臨床研究は、「ヘルシンキ宣言」および「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守して実施し、大阪大学倫理委員会の承認を得ている。

C. 研究結果

自主臨床研究「神経難病における疼痛に特徴的な客観的指標及び運動感覚閾値の変動を基盤とした中枢神経感作の研究」は、令和2年3月までにパーキンソン病20名、スモン2名、筋萎縮性側索硬化症5名、筋疾患20名の検査を完了している。現在解析を行っており、学会発表を予定している。2018年3月に、日本神経学会専門医5470名に対してアンケート用紙を送付したアンケートを回収、集計を行った。

D. 考察

解析中であるが、神経変性疾患の異常感覚は、脳局所部位同士の異常な結合が原因の可能性が高い。アンケートでは神経内科医師の大部分が神経難病の異常感覚の対応に苦渋していることが理解できた。

E. 結論 概ね順調に進行している。

F. 健康危険情報 特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

・Matsugi A, et al. Cerebellum-mediated trainability of eye and head movements for dynamic gazing. PLoS One. 2019 Nov 4;14(11)

・Saitoh Y. Spinal Cord Stimulation: An Update. No Shinkei Geka. 2018 Jun;46(6):535-546.

・Shimizu T, et al. Repetitive transcranial magnetic stimulation accuracy as a spinal cord stimulation outcome predictor in patients with neuropathic pain. J Clin Neurosci. 2018 Jul;53:100-105.

2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業研究事業）
（分担）研究報告書

神経難病における中枢神経感作の
メカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発

研究分担者 | 望月 秀樹 大阪大学
大学院医学系研究科神経内科学 教授

研究要旨

脳科学の手法を用いて神経難病のアンメットニーズである異常感覚や痛みを解析し、中枢神経感作のメカニズムを解明するとともに、実際の診療状態を調査する。

A. 研究目的

神経難病の異常感覚と痛みの中心神経感作のメカニズムを明らかにする。実際に神経難病を診察している医師のニーズ、考え方を調査する。

B. 研究方法

自主臨床研究にて、神経難病患者に対する電機生理学及び脳機能画像を用いた評価を行う。また、アンケート調査を行い、診療実態を調査する。

（倫理面への配慮）

臨床研究は、「ヘルシンキ宣言」および「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守して実施し、大阪大学倫理委員会の承認を得ている。

C. 研究結果

自主臨床研究「神経難病における疼痛に特徴的な客観的指標及び運動感覚閾値の変動を基盤とした中枢神経感作の研究」は、令和2年3月までにパーキンソン病20名、スモン2名、筋萎縮性側索硬化症5名、筋疾患20名の検査を完了している。現在解析を行っており、学会発表を予定している。2018年3月に、日本神経学会専門医5470名に対してアンケート用紙を送付したアンケートを回収、集計を行った。

D. 考察

解析中であるが、神経変性疾患の異常感覚は、脳局所部位同士の異常な結合が原因の可能性が高い。アンケートでは神経内科医師の大部分が神経難病の異常感覚の対応に苦渋していることが理解できた。結論 概ね順調に進行している。

F. 健康危険情報 特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

・Ikenaka K, et al. A behavior-based drug screening system using a Caenorhabditis elegans model of motor neuron disease. Sci Rep. 2019.

・Hideshima M, et al. A clinicopathological study of ALS with L126S mutation in the SOD1 gene presenting with isolated inferior olivary hypertrophy. Neuropathology. 2019

2. 学会発表

Future Therapy for Parkinson's Disease. Dailan, China.

Novel anti -Synucleintherapy using antisense oligonucleotide containing Amido-bridged nucleic acid. Madrid, Spain.

Propagation of -synucleinin Parkinson's disease. Kuala Lumpur, Malaysia.

Propagation of -synuclein in Parkinson's disease. Ulm, Germany.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得なし 2. 実用新案登録なし
3. その他

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業研究事業）
（分担）研究報告書

神経難病における中枢神経感作の
メカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発

研究分担者 | 柴田 政彦 大阪大学
学校法人奈良学園 奈良学園大学 保健医療学部 教授

研究要旨

脳科学の手法を用いて神経難病のアンメットニーズである異常感覚や痛みを解析し、中枢神経感作のメカニズムを解明するとともに、実際の診療状態を調査する。

A. 研究目的

神経難病の異常感覚と痛みの中心神経感作のメカニズムを明らかにする。実際に神経難病を診察している医師のニーズ、考え方を調査する。

B. 研究方法

自主臨床研究にて、神経難病患者に対する電機生理学及び脳機能画像を用いた評価を行う。また、アンケート調査を行い、診療実態を調査する。

（倫理面への配慮）

臨床研究は、「ヘルシンキ宣言」および「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守して実施し、大阪大学倫理委員会の承認を得ている。

C. 研究結果

自主臨床研究「神経難病における疼痛に特徴的な客観的指標及び運動感覚閾値の変動を基盤とした中枢神経感作の研究」は、令和2年3月までにパーキンソン病20名、スモン2名、筋萎縮性側索硬化症5名、筋疾患20名の検査を完了している。現在解析を行っており、学会発表を予定している。2018年3月に、日本神経学会専門医5470名に対してアンケート用紙を送付したアンケートを回収、集計を行った。

D. 考察

解析中であるが、神経変性疾患の異常感覚は、脳局所部位同士の異常な結合が原因の可能性が高い。アンケートでは神経内科医師の大部分が神経難病の異常感覚の対応に苦渋していることが理解できた。

E. 結論

概ね順調に進行している。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

1: Hayashi K, Shibata M. Factors influencing outcomes among patients with whiplash-associated disorder: A population-based study in Japan. PLoS One. 2019 May 14;14(5)

2: Adachi T, Shibata M, et al. Japanese cross-cultural validation study of the Pain Stage of Change Questionnaire. Pain Rep. 2019 Feb 7;4(2): e711.

3: Yamada K, Kubota Y, et al. Association of sleep sufficiency and duration with chronic pain prevalence: A population-based cross-sectional study. J Psychosom Res. 2019 May;120:74-80.

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業研究事業）
（分担）研究報告書

神経難病における中枢神経感作の
メカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発

研究分担者 | 細見 晃一 大阪大学
大学院医学系研究科脳神経機能再生学 特任講師（常勤）

研究要旨

脳科学の手法を用いて神経難病のアンメットニーズである異常感覚や痛みを解析し、中枢神経感作のメカニズムを解明するとともに、実際の診療状態を調査する。

A. 研究目的

神経難病の異常感覚と痛みの中心神経感作のメカニズムを明らかにする。実際に神経難病を診察している医師のニーズ、考え方を調査する。

B. 研究方法

自主臨床研究にて、神経難病患者に対する電機生理学及び脳機能画像を用いた評価を行う。また、アンケート調査を行い、診療実態を調査する。
（倫理面への配慮）

臨床研究は、「ヘルシンキ宣言」および「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守して実施し、大阪大学倫理委員会の承認を得ている。

C. 研究結果

自主臨床研究「神経難病における疼痛に特徴的な客観的指標及び運動感覚閾値の変動を基盤とした中枢神経感作の研究」は、令和2年3月までにパーキンソン病20名、スモン2名、筋萎縮性側索硬化症5名、筋疾患20名の検査を完了している。現在解析を行っており、学会発表を予定している。2018年3月に、日本神経学会専門医5470名に対してアンケート用紙を送付したアンケートを回収、集計を行った。

D. 考察

解析中であるが、神経変性疾患の異常感覚は、脳局所部位同士の異常な結合が原因の可能性が高い。アンケートでは神経内科医師の大部分が神経難病の異常感覚の対応に苦渋していることが理解できた。

E. 結論

概ね順調に進行している。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表
 - ・Fukuma R, et al. Real-Time Neurofeedback to Modulate β -Band Power in the Subthalamic Nucleus in Parkinson's Disease Patients. eNeuro. 2018
 - ・Yanagisawa T, et al. MEG-BMI to Control Phantom Limb Pain. Neurol Med Chir (Tokyo).2018 Aug 15;58(8):327-333.
2. 学会発表
 - rTMSを用いたパーキンソン病の脳内メカニズムの解明研究（第57回日本定位・機能神経外科学会）

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業研究事業）
（分担）研究報告書

神経難病における中枢神経感作の
メカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発

研究分担者 宮井一郎 社会医療法人大道会 森之宮病院
神経リハビリテーション研究部・部長

研究要旨

脳科学の手法を用いて神経難病のアンメットニーズである異常感覚や痛みを解析し、中枢神経感作のメカニズムを解明するとともに、実際の診療状態を調査する。

A. 研究目的

神経難病の異常感覚と痛みの中心神経感作のメカニズムを明らかにする。実際に神経難病を診察している医師のニーズ、考え方を調査する。

B. 研究方法

自主臨床研究にて、神経難病患者に対する電機生理学及び脳機能画像を用いた評価を行う。また、アンケート調査を行い、診療実態を調査する。

（倫理面への配慮）

臨床研究は、「ヘルシンキ宣言」および「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守して実施し、大阪大学倫理委員会の承認を得ている。

C. 研究結果

自主臨床研究「神経難病における疼痛に特徴的な客観的指標及び運動感覚閾値の変動を基盤とした中枢神経感作の研究」は、令和2年3月までにパーキンソン病20名、スモン2名、筋萎縮性側索硬化症5名、筋疾患20名の検査を完了している。現在解析を行っており、学会発表を予定している。2018年3月に、日本神経学会専門医5470名に対してアンケート用紙を送付したアンケートを回収、集計を行った

D. 考察

解析中であるが、神経変性疾患の異常感覚は、脳局所部位同士の異常な結合が原因の可能性が高い。アンケートでは神経内科医師の大部分が神経難病の異常感覚の対応に苦渋していることが理解できた。

E. 結論

概ね順調に進行している。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

・Yamasaki HR, Miyai I, et al. Organization of functional modularity in sitting balance response and gait performance after stroke. Clin Biomech (Bristol, Avon). 2019.

・Kokura Y, et al. Weight gain is associated with improvement in activities of daily living in underweight rehabilitation inpatients: a nationwide survey. Eur J Clin Nutr. Dec;73(12):1601-1604. 2019

・Fujimoto H, et al. Neurofeedback-induced facilitation of the supplementary motor area affects postural stability. Neurophotonics. 2017 Oct;4(4):045003.

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし 2. 実用新案登録 なし 3. その他

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業研究事業）
（分担）研究報告書

神経難病における中枢神経感作の
メカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発

研究分担者 藤村 晴俊 独立行政法人国立病院機構 刀根山病院
診療部・副院長

研究要旨

脳科学の手法を用いて神経難病のアンメットニーズである異常感覚や痛みを解析し、中枢神経感作のメカニズムを解明するとともに、実際の診療状態を調査する。

A. 研究目的

神経難病の異常感覚と痛みの中心神経感作のメカニズムを明らかにする。実際に神経難病を診察している医師のニーズ、考え方を調査する。

B. 研究方法

自主臨床研究にて、神経難病患者に対する電機生理学及び脳機能画像を用いた評価を行う。また、アンケート調査を行い、診療実態を調査する。
（倫理面への配慮）

臨床研究は、「ヘルシンキ宣言」および「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守して実施し、大阪大学倫理委員会の承認を得ている。

C. 研究結果

自主臨床研究「神経難病における疼痛に特徴的な客観的指標及び運動感覚閾値の変動を基盤とした中枢神経感作の研究」は、令和2年3月までにパーキンソン病20名、スモン2名、筋萎縮性側索硬化症5名、筋疾患20名の検査を完了している。現在解析を行っており、学会発表を予定している。2018年3月に、日本神経学会専門医5470名に対してアンケート用紙を送付したアンケートを回収、集計を行った

D. 考察

解析中であるが、神経変性疾患の異常感覚は、脳局所部位同士の異常な結合が原因の可能性が高い。アンケートでは神経内科医師の大部分が神経難病の異常感覚の対応に苦渋していることが理解できた

概ね順調に進行している。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

・Yamadera M, et al. Response to the Letter: Confirmation of stroke-like lesions on MRI is a prerequisite for their histopathological assessment. *Neuropathology*. 2019 Nov 28.

・Hasuike Y, et al. Bile acid abnormality induced by intestinal dysbiosis might explain lipid metabolism in Parkinson's disease. *Med Hypotheses*. 2019. Oct 15;134: 109436.

2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他

研究成果の刊行に関する一覧表レイアウト（参考）

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Goto Y, Mano T, et al.	Pilot Study of Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation in Patients With Chemotherapy-Induced Peripheral Neuropathy.	J Clin Neurosci	73	101-107	2020
Hosomi K, Mano T.	A randomized controlled trial of 5 daily sessions and continuous trial of 4 weekly sessions of repetitive transcranial magnetic stimulation for neuropathic pain.	Pain.	161	351-360	2020
Matsugi A, et al.	Cerebellum-mediated trainability of eye and head movements for dynamic gazing.	PLoS One.	14		2019
Saitoh Y.	Spinal Cord Stimulation: An Update.	No Shinkei Geka.	46	535-546.	2018
Shimizu T, et al.	Repetitive transcranial magnetic stimulation accuracy as a spinal cord stimulation outcome predictor in patients with neuropathic pain.	J Clin Neurosci	53	100-105	2018

Ikenaka K, et al.	A behavior-based drug screening system using a <i>Caenorhabditis elegans</i> model of motor neuron disease.	Sci Rep.			2019
Hideshima M, et al.	A clinicopathological study of ALS with L126S mutation in the SOD1 gene presenting with isolated inferior olivary hypertrophy.	Neuropathology.			2019
Hayashi K, Shibata M.	Factors influencing outcomes among patients with whiplash-associated disorder: A population-based study in Japan.	PLoS One.	14		2019
Adachi T, Shibata M, et al.	Japanese cross-cultural validation study of the Pain Stage of Change Questionnaire.	Pain Rep.	4	E711	2019
Yamada K, Kubota Y, et al.	Association of sleep sufficiency and duration with chronic pain prevalence: A population-based cross-sectional study.	J Psychosom Res.	120	71-80	2019
Fukuma R, et al.	Real-Time Neurofeedback to Modulate β -Band Power in the Subthalamic Nucleus in Parkinson's Disease Patients.	eNeuro.			2018
Yanagisawa T, et al.	MEG-BMI to Control Phantom Limb Pain.	Neurol Med Chir (Tokyo).	58	327-333	2018
Yamasaki HR, Miyai I, et al.	Organization of functional modularity in sitting balance response and gait performance after stroke.	Clin Biomech (Bristol, Avon).			2019
Kokura Y, et al.	Weight gain is associated with improvement in activities of daily living in underweight rehabilitation inpatients: a nationwide survey.	Eur J Clin Nutr.	73 (12)	1601-1604	2019

Fujimoto H, et al.	Fujimoto H, et al. Neurofeedback-induced facilitation of the supplementary motor area affects postural stability.	Neurophotonics.	4	045003.	2017
Yamadera M, et al.	Response to the Letter: Confirmation of stroke-like lesions on MRI is a prerequisite for their histopathological assessment.	Neuropathology.	28		2019
• Hasuike Y, et al.	Bile acid abnormality induced by intestinal dysbiosis might explain lipid metabolism in Parkinson's disease.	Med Hypotheses.	134	109436	2019

「厚生労働科学研究費における倫理審査及び利益相反の管理の状況に関する報告について
(平成26年4月14日科発0414第5号)」の別紙に定める様式(参考)

年 月 日

厚生労働大臣
(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
(国立保健医療科学院長)

機関名

所属研究機関長 職 名

氏 名 _____ 印

次の職員の(元号) 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 _____
2. 研究課題名 _____
3. 研究者名 (所属部局・職名) _____
(氏名・フリガナ) _____

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無 有 無	左記で該当がある場合のみ記入(1)		
		審査済み	審査した機関	未審査(2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針				
遺伝子治療等臨床研究に関する指針				
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(3)				
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針				
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: _____)				

(1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他(特記事項)

(2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講	未受講

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有	無 (無の場合はその理由: _____)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有	無 (無の場合は委託先機関: _____)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有	無 (無の場合はその理由: _____)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有	無 (有の場合はその内容: _____)

(留意事項) ・該当する にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

研究成果の刊行に関する一覧表レイアウト

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Goto Y, Mano T, et al.	Pilot Study of Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation in Patients With Chemotherapy-Induced Peripheral Neuropathy.	J Clin Neurosci	73	101-107	2020
Hosomi K, Mano T.	A randomized controlled trial of 5 daily sessions and continuous trial of 4 weekly sessions of repetitive transcranial magnetic stimulation for neuropathic pain.	Pain.	161	351-360	2020
Matsugi A, et al.	Cerebellum-mediated trainability of eye and head movements for dynamic gazing.	PLoS One.	14		2019
Saitoh Y.	Spinal Cord Stimulation: An Update.	No Shinkei Geka.	46	535-546.	2018
Shimizu T, et al.	Repetitive transcranial magnetic stimulation accuracy as a spinal cord stimulation outcome predictor in patients with neuropathic pain.	J Clin Neurosci	53	100-105	2018

Ikenaka K, et al.	A behavior-based drug screening system using a <i>Caenorhabditis elegans</i> model of motor neuron disease.	Sci Rep.			2019
Hideshima M, et al.	A clinicopathological study of ALS with L126S mutation in the SOD1 gene presenting with isolated inferior olivary hypertrophy.	Neuropathology.			2019
Hayashi K, Shibata M.	Factors influencing outcomes among patients with whiplash-associated disorder: A population-based study in Japan.	PLoS One.	14		2019
Adachi T, Shibata M, et al.	Japanese cross-cultural validation study of the Pain Stage of Change Questionnaire.	Pain Rep.	4	E711	2019
Yamada K, Kubota Y, et al.	Association of sleep sufficiency and duration with chronic pain prevalence: A population-based cross-sectional study.	J Psychosom Res.	120	71-80	2019
Fukuma R, et al.	Real-Time Neurofeedback to Modulate β -Band Power in the Subthalamic Nucleus in Parkinson's Disease Patients.	eNeuro.			2018
Yanagisawa T, et al.	MEG-BMI to Control Phantom Limb Pain.	Neurol Med Chir (Tokyo).	58	327-333	2018
Yamasaki HR, Miyai I, et al.	Organization of functional modularity in sitting balance response and gait performance after stroke.	Clin Biomech (Bristol, Avon).			2019
Kokura Y, et al.	Weight gain is associated with improvement in activities of daily living in underweight rehabilitation inpatients: a nationwide survey.	Eur J Clin Nutr.	73 (12)	1601-1604	2019

Fujimoto H, et al.	Fujimoto H, et al. Neurofeedback-induced facilitation of the supplementary motor area affects postural stability.	Neurophotonics.	4	045003.	2017
Yamadera M, et al.	Response to the Letter: Confirmation of stroke-like lesions on MRI is a prerequisite for their histopathological assessment.	Neuropathology.	28		2019
• Hasuike Y, et al.	Bile acid abnormality induced by intestinal dysbiosis might explain lipid metabolism in Parkinson's disease.	Med Hypotheses.	134	109436	2019

令和2年3月31日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 公立大学法人奈良県立医科大学

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 細井 裕司



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 神経難病における中枢神経感作のメカニズム研究とアンメットニーズに応える
革新的治療法の開発
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部 講師
(氏名・フリガナ) 眞野 智生 (マノ トモオ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	大阪大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する口にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2020 年 2 月 21 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 社会医療法人大道会森之宮病院

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 大道 道大



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 神経難病における中枢神経感作のメカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発
3. 研究者名 (所属部局・職名) 神経リハビリテーション研究部・部長
(氏名・フリガナ) 宮井 一郎・ミヤイ イチロウ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

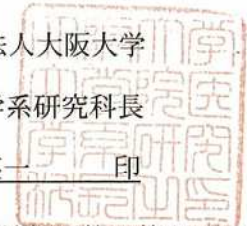
2020年2月5日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人大阪大学

所属研究機関長 職名 大学院医学系研究科長

氏名 森井 英一 印



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 神経難病における中枢神経感作のメカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発

3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学系研究科脳神経機能再生学・特任教授 (常勤)

(氏名・フリガナ) 齋藤 洋一・サイトウ ヨウイチ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	大阪大学医学部附属病院	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

機関名 国立大学法人大阪大学
 所属研究機関長 職名 大学院医学系研究科長
 氏名 森井 英一 印



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 神経難病における中枢神経感作のメカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発
3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学系研究科脳神経機能再生学・特任講師 (常勤)
 (氏名・フリガナ) 細見 晃一・ホソミ コウイチ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	大阪大学医学部附属病院	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2020年2月5日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人大阪大学
所属研究機関長 職名 大学院医学系研究科長
氏名 森井 英一 印

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
- 2. 研究課題名 神経難病における中枢神経感作のメカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学系研究科神経内科学・教授
(氏名・フリガナ) 望月 秀樹・モチヅキ ヒデキ
- 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	大阪大学医学部附属病院	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。
(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

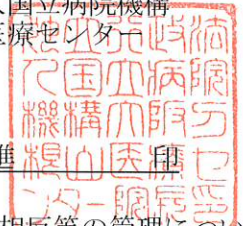
(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 独立行政法人国立病院機構
大阪刀根山医療センター

所属研究機関長 職名 院長

氏名 奥村 明之進



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 神経難病における中枢神経感作のメカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発
3. 研究者名 (所属部局・職名) 脳神経内科・副院長
(氏名・フリガナ) 藤村 晴俊・フジムラ ハルトシ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

機関名 奈良学園大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 辻 毅一郎 印



次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 神経難病における中枢神経感作のメカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発
3. 研究者名 (所属部局・職名) 保健医療学部・教授
(氏名・フリガナ) 柴田 政彦 (シバタ マサヒコ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。